（別紙4）　　令和　5　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）（3ユニット/1階）

事業所番号	2793100146		
法人名	株式会社ジャパンメディケアネット		
事業所名	グループホームつながり城北		
所在地	大阪市旭区赤川1－3－24		
自己評価作成日	令和6年1月15日	評価結果市町村受理日	令和6年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2793100146-00&ServiceCd=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ　ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2－1－8　FGビル大阪　4階
訪問調査日	令和6年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

【楽しむ】をコンセプトにしており、毎月行事計画に沿ったレクリエーションを実施。夏・冬には大型レクを実施している。日頃から散歩や外出を行っており、面会に関しても感染対策を徹底した上で自由に面会を実施している。また、遠方のご家族様や対面面会が気になるご家族様向けにweb面会も対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は2018年に最寄り駅から徒歩3分の便利な場所に3ユニットで開設された。一昨年8月に就任した管理者は事業所理念を「助け合い、認め合い、許し合う」とし、職員はこの理念に基づき利用者が家族との関わりを大切にしながら日々楽しめる様に努力している。大型レクレーションとして夏の納涼祭、冬のクリスマスには家族も参加し楽しいひと時を過ごすことができる。本年4月には京都嵐山への日帰りバス旅行を予定しており、利用者、家族、職員が皆で楽しめるよう準備している。職員間のコミュニケーションも良く、毎月のフロア会議での話し合いはもとより、スタッフルームにボックスを設け、会議に参加できない場合も意見収集が出来るようにしている。看護師資格を持つ職員がおり、医療との連携も万全である。家庭的な雰囲気の中、利用者が笑顔になれるよう全員一丸となり努力している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

【本評価結果は、3ユニット総合の外部評価結果である】

自己評価および外部評価結果（3ユニット総合外部評価結果）

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲示されており、共有している。また、フロア会議等で共有確認を行っている。	事業所理念「助け合い、認め合い、許し合う」を基に、ユニット目標として1階「すべての人の尊厳を大切にする」、2階「いつも笑顔を絶やさずに」、3階「それぞれの役割を感じられる生活を」を職員で考え、ユニット内に掲示し日常ケアを振り返りながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣散歩の際、地域の方々と交流を図れるように取り組んでいる。また、認知症カフェを開催中。	町内会に入り、町会長から地域の情報を得ている。夏祭りの神輿の訪問があり、利用者・職員共に楽しみにしている。第2日曜に事業所で認知症カフェを開催し、介護相談を受け付けている。近隣の高齢者施設の火災発生時には、管理者が自ら出向き被災住民15名を受け入れた実績がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月認知症カフェを開催しており、相談があれば対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、意見交換や問題点の報告、改善に向け意見を頂いている。	会議は、利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員、職員をメンバーとして奇数月に開催されている。議事録は運営状況、行事報告、事故報告など詳細に記録し、メンバーと全家族に送付している。会議室が手狭であるため公民館を利用して開催している。議事録は1階玄関口に開示している。	運営推進会議は地域の人や家族、知見者などから意見を聞き取り、サービス向上に活かす重要な場である。非常災害時の対応、地域交流、ボランティアの受け入れなども議題として、意見の出やすい会議運営とされ、提案された意見に対する事業所の施策も説明するなど、双方向の会議となることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に施設長、介護支援相談員が対応している。	生活保護受給者が12名おり、月1回は申請手続きのため区役所の生活支援課を訪問している。市のケースワーカーの訪問もある。市が行っている研修（実践者・キャリアパス研修）にも参加している。事業所連絡会にも参加し、地域の情報交換を行っている。近隣の高齢者施設の火災発生時の被災者受け入れでは、福祉課から感謝の言葉をもらっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に委員会を開催しており、各階不適切な事案が無いか確認を行っている。また、年二回の研修内容について話し合い委員会担当者で研修資料を作成している。	身体拘束適正化の指針を作成し、3カ月ごとに委員会を開催している。議事録は各ユニットに置き職員皆が確認できるようにしている。研修は身体拘束適正化委員（職員）が資料を作成して年2回行っている。転倒防止のため居室に赤外線センサーを使用している利用者もいるが、家族には説明し了承を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に委員会を開催しており、各階不適切な事案が無いか確認を行っている。また、年二回の研修内容について話し合い委員会担当者で研修資料を作成している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、学ぶ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、不明な点があればその都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日の食事メニューの掲載等、要望があれば施設内で検討し、反映に向け取り組んでいる。	利用者の意見は日常生活の中で、家族の意見は面会時や電話連絡時に聞き、全体会議で検討している。毎月写真満載の事業所だよりを発行し、家族に送付し喜ばれている。面会制限は解除されているが、ラインでも写真・動画を送り、顔を見ながら話すことができるようにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月フロア会議、全体会議を実施しており、意見や提案を聞く機会をも受けている。また、半年に1回施設長による個人面談を実施。	職員が意見を述べる機会は、毎月のフロア会議・全体会議がある。職員による委員会活動が活発で、感染対策・虐待防止・事故発生防止・災害対策・身体拘束適正化委員会があり、それぞれ運営に反映させている。管理者による個人面談は年1回ある。また職員の親睦会もあり、ユニット間の連携が取りやすくなるように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各階のフロアリーダーが勤務表を作成、管理しており勤務状況や勤務態度等を施設長に報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では年間研修計画に沿って所内研修の資料作成を職員が行っている。学びたい研修などがあれば都度外部研修を利用し、研修資料の作成に活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長が連絡会等の地域の交流会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談時に要望や不安要素を確認し、入居後過ごしやすい環境作りに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談時に要望や不安要素を確認し、入居後過ごしやすい環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面談時に要望や不安要素を確認し、入居後過ごしやすい環境作りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のADLに対して、できることやしたい事等を見極め継続して支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	意見や希望を聞き取り、希望に沿った対応を心掛けている。また、ご家族様との情報共有もできている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会があれば都度対応しているが、慣れ親しんだ場所への外出は実現できていない。	利用者の生い立ち・生活歴全般の把握は入居前の面談やフェイスシートにより行っている。職員は利用者に出来る限り話をしてもらう事を心掛け、電話の取次ぎ支援も積極的に行っている。ラインによる面会も行っている。年賀状が届く利用者には返事を書く支援を行い、馴染みの関係が途切れないように配慮している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が交流を深めれるよう、関係性や性格を把握し、話の場やレクリエーションへの参加を促している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設長が対応している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望に沿った環境作りに努めている。	利用者の思いや意向は、日常生活の中でのこまめな声掛けにより汲み取る様にしている。川沿いを散歩しながら話したり、家族に聞くこともある。把握した内容は個人記録に記載し、フロア会議で話し合い情報共有している。意向に沿ってノンアルコールビールを飲む、演歌を聞く、大正琴を弾くひと時もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様に生活歴等を聞き取り行い情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の状態を観察し、状態に応じて対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前、入居後も定期的にヒアリングを行い、担当者会議等でケアマネに意見を伝え、計画書を作成している。	利用者・家族の要望を基に個別記録、申し送りノート、医師、看護師の意見を参考に、介護職を兼任しているケアマネジャーも参加してフロア会議で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。家族へは管理者、またはケアマネジャーから説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノートを活用し、職員全員が情報共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度ケア方法を検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	初詣や公園、地域での開催イベントに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を行っており、適切な医療が受けれるよう支援している。	利用者は全員かかりつけ医による月２回の訪問診療を受けている。内科だけでなく、整形、精神科、皮膚科もあり、通院の必要があると主治医から指示があれば、家族に連絡の上事業所が送迎、同行している。歯科、マッサージも希望者には訪問診療がある。往診記録で職員間は共有している。職員看護師（常勤）がおり訪問看護と連携して利用者の健康管理をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設常駐看護職員や訪問看護と連携し、状態の変化の確認報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	毎月の往診を活用し、状態の変化を見て頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に施設長から説明。現状、対象者はいないが今後状態の変化があればすぐさま取り組めるよう努めている。	重度化の指針、看取りの指針があり、職員はターミナルケア、褥瘡についての研修を受けて、かかりつけ病院、訪問看護とのオンコール対応などの準備はできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	所内研修で「緊急時対応」を行っており、意識を高めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設のBCPに沿って対応。また、定期的に開催している委員会で内容の確認や研修でシミュレーションを行い備える。	BCP（事業継続計画書）は完成しており、シミュレーション研修も実施している。最近、近所の有料老人ホームで火災が発生し、そのあと行政の緊急立ち入り検査があり職員の意識は高い。水害時は3階への避難が必要でその訓練も全員参加で行った。近隣との協力体制もできている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの方法や対応方法を気を付け丁寧な対応を心掛けている。	接遇研修を行いそのあと、内容に関するアンケートで意識を高める努力をしている。現在一番の課題としているのは「親しくなりすぎない」でスピーチロックなど言葉かけに注意している。申し送りの時などは個人名を避け部屋番号を使ったり、メモなども利用者の目に触れないように気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時、散歩等日常的に希望や考えを確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時、散歩等日常的に希望や考えを確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	慣れ親しんだ洋服を着用して頂いたり、介助が必要な方には衣類が偏らないよう工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な範囲対応しており、片付け等は一緒に行っている。	基本はクックチル（湯煎）で炊飯とみそ汁は各フロアで行っている。月１回程度、食事レクリエーションでお好み焼きやちらし寿司など、おやつレクリエーションでたこ焼きやお菓子つくりなどを楽しんでいる。利用者はできることで参加しており、毎食後の下膳や食器洗いをしている姿を見ることができた。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表を活用し、摂取量の少ない方には補助食品等で補えるよう対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず口腔ケアを実施。自立の方には都度声掛けを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時での声掛けや訴え時は即座に誘導をしており排泄自立に向け取り組んでいる。	現在は半数以上の人が自分からトイレに行くので職員は見守りや後の確認、一部介助などその人に必要な支援をしている。車いすの人や訴えのない人も立位がとれればトイレを使っている。便座の高さが合わなくて排便しにくかった人に台をおいて気持ち良い排泄ができるようになった例を聞いた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ下剤に頼らず、水分摂取や運動の促しを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、本人の状態や希望に沿って対応している。	浴そうは一般家庭用で手すりや、シャワーチエア、シャワーキャリーなどの機器を使って安全な入浴を心がけている。重度の人も二人介助で全員が浴槽に入って入浴を楽しんでいる。一人で入りたい希望の人には浴室の外で見守りしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整え夜間安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を職員が閲覧できるようにしており、内容の把握をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段のレクリエーションや月に1回誕生日会のケーキ作りを入居者様に行って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩は普段から実施しているが、遠出は無く今後の課題。	すぐ目の前に小さい公園、少し足を伸ばせば大きい公園があり、散歩にはよい環境である。春に大型観光バスを借りて京都方面にでかける日帰り旅行を計画中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理しており、希望があれば都度渡している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃で清潔を保ち、住みやすい空間作りを行っている。	リビングは日あたりがよく、利用者は一日の大半をそこで過ごしている。その日の食事メニューが絵入りで書かれていて食事が楽しみになるように工夫されている。廊下の白い壁には書初めの作品や龍のペーパークラフトなどが彩りよく飾られており、楽しい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	要望があれば共同レクに強制せず、自室で過ごす時間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や衣類など、慣れ親しんだ物を持ち込みして頂き家と変わらない生活を送っていただけるよう努めている。	居室はベット、洗面台、カーテン、冷暖房照明等の機器、タンスが設置されているのが基本であるが、中にはタンスは置いてなかったり、自分のタンスを持ち込んでいる部屋もあった。自分や家族の写真のほかにマリリンモンローのパネルやフィギュア、レコードプレーヤーを持ち込んでいる部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に暮らせる空間を作り、サポートしている		